

総合計画審査特別委員会
基本構想分科会記録

令和3年11月26日

【開催日】 令和3年11月26日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午後1時30分～午後2時40分

【出席委員】

分科会長	笹木慶之	副分科会長	森山喜久
委員	伊場勇	委員	白井健一郎
委員	中岡英二	委員	長谷川知司
委員	藤岡修美	委員	松尾数則
委員	吉永美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	高松秀樹	副議長	中村博行
----	------	-----	------

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

事務局長	尾山邦彦	事務局次長	島津克則
------	------	-------	------

【付議事項】

1 基本構想の改訂及び重点プロジェクトについて

午後1時30分 開会

笹木慶之分科会長 ただいまから、2回目の基本構想分科会を開催します。前回は11月5日に開催して、構想について審議しました。既にそのときに配布されておりますように、執行部から基本構想の見直しの考え方が示されております。それに沿って、全部読むのは省略しますが、基本構想は平成30年度から令和11年度までの12年間の本市の目指す将来都市像と、それを実現するためのまちづくりの基本的な方向性を基本構想審議会や若者みらい会議を始めとする多くの市民の参加の下、2年以上の歳月を掛けて策定したものですというふうになっております。そして中段辺りから最後のところになりますが、自治基本条例においても、市は社会情勢の変化及び市民等の要望を的確に把握し、適宜総合計画の見直しを行うものとしますと定めているように、社会情勢の変化や新たに発生した行政課題へ的確に対応するため、今回、基本構想に協創によるまちづくりの考え方を組み込むなど、一部を改正していますという前段の説明の下に審議を始めたというふうに思います。そういった中で、前回執行部から説明を受けながら内容を確認してきたわけですが、それ

それぞれの立場で各分科会の審査で新たな認識があったかもしれませんが、もう一度確認していただきたいというふうに思いますが、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、総合計画の基本構想の2ページ、3ページについて御意見を頂きたいと思います。

白井健一郎委員 前回、スマイルシティ山陽小野田というキャッチフレーズが、全国的にどこまで認知されたのかということを確認したときに、執行部がこれは違うんだ、そういうことを目標にしていないという返答だったんです。キャッチフレーズというのは、告知や宣伝というふうな意味ですから、スマイルシティ山陽小野田というのが、山陽小野田市のブランドとして全国的にどれだけ広まっているかというのは、考えられてしかるべきと思うんです。

笹木慶之分科会長 白井委員から、そのような意見がありました。皆さん、どうでしょうか。これは評価の仕方というか、捉え方の問題ですね。

伊場勇委員 キャッチフレーズについては、考え方、捉え方と思うんですが、私も白井委員と考えるは似ているようなところがあります。キャッチフレーズを作るのであれば、市内もそうですけど、市外、県外にしっかり発信できるように、このまちはスマイルシティというのを推進して進めているんだよというところは自信を持って見せるべきかというふうに思います。執行部の立ち位置としては、そこまで広げなくても、まずはキャッチフレーズを表に出して、各施策を進めていきたいというような、イメージ的には発信というか、スタイル的な位置づけにキャッチフレーズをしているのかなというふうに思います。ただ、文章として書くというのが、基本構想の中に落とし込むのが少し難しいような気もしています。思いとしては、白井委員と私は似たようなところがありますが、文章として、この基本構想に落とし込むというのは、どうしたらいいのかなというふうに考えています。

中岡英二委員 この2ページにも活力と笑顔あふれるまちということで、下から3番目に「市民や本市訪れた人が笑顔でいきいきと過ごしているまちなりのイメージを伝えるために、このような次のキャッチフレーズを定め、市内外に向けての本市の魅力を発信していく」という文言がありますから、是非ともこれは、さっき言われたように大事なキャッチフレーズであり、これをブランド化していくためには、もっと発信するというのを、もう一度執行部にも考えていただきたいと思います。

伊場勇委員 今の文章をいじくるんじゃなくて、基本構想の文面で行くけども、例えば要望とか、附帯意見として、そういうふうに伝えていくという感じなんですか。

笹木慶之分科会長 伊場委員からありましたが、白井委員は、その辺りどのようにお考えですか。

白井健一郎委員 伊場委員の今の意見に賛成です。

笹木慶之分科会長 そうすると、非常に表現が難しいというようなところもあります。方向性として、キャッチフレーズをもって市の知名度を上げていくということだけど、中岡委員の話からすると、インパクトが弱いから、もっと内外に知らしめるような力強いメッセージであってほしいということですね。

森山喜久副分科会長 市のホームページでスマイルシティのキャッチフレーズを出すとか、封筒といったところにスマイルシティ山陽小野田を出すところを踏まえて、きちんとアピール、PRしていくということを執行部に求めていくべきということによっていったらいいのかなというふうに思います。

笹木慶之分科会長 副会長から具体的な意見がありましたが、皆さんいかがでしょうか。御意見ありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）そうしますと、この取扱いですが、今のようなものを要望としてまとめていくことになるでしょうか。ほかに意見がないようでしたら、この件については、そういう方向性で、もう少し力強くPRといたしますか、対応をお願いするという形でまとめていきたいというふうに思います。ほかには御意見ありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）2、3ページは終わります。次の4、5ページについて、意見をお願いしたいと思います。確認しますが、ここでの修正は、基本目標の1の中の中段の感染症への対応を含むという部分と、それから基本目標の2の最後の4行、5行ですか、協創によるまちづくりというところから、目指しますという部分。そして5ページが、目標の4で、後段から2行目の活かしてという表現だけを修正しています。

長谷川知司委員 4の産業観光ですけれど、ここにレジャーという言葉が全然

出ていないんです。レジャーと観光というのは違うと思うんで、やっぱりレジャーということに対して、一言言葉が欲しいなと思います。例えば山陽オート、あるいはゴルフ、そういうものは市の目玉でもあると思いますので、そういう言葉が欲しいなと思います。

笹木慶之分科会長 これについては総務文教分科会での意見も踏まえてということになるんですか。（「はい」と呼ぶ者あり）この件は、前回の基本構想分科会の中でもレジャーということについて取り上げて、意見の交換をしたと思うんですけど、総務文教分科会の基本計画の中でのものを持って、この基本構想の基本目標の4番にレジャーという言葉が欲しいという意見ですね。皆さんの意見はいかがでしょうか。

伊場勇委員 レジャーという言葉は、どこにどういうふうに入れたらいいというふうに思っていますか。

長谷川知司委員 レジャーというとレジャー産業ということで、産業の中に含まれるという見方もありますので、大きい基本目標4のところではなく、その下の説明文に、例えば、山陽オートやゴルフ場などのレジャーという言葉がどっかに入れられればいいなと思っています。

笹木慶之分科会長 基本目標（4）の大きなところに入れるのではなく、文書の中に挿入する、溶け込ませるということですね。

長谷川知司委員 文章の中には、山口東京理科大学を活用した新産業の創出や人材育成とかあります。そういう具体的な例も書いてありますので、その中に山陽オートやゴルフ場を生かしたレジャーの交流人口という言葉が入ればいいかなと思っています。

中岡英二委員 一行目にあります「本市を発展させ、活力とにぎわいを生み出す源は産業活動にあります」とありますが、その産業活動の後に「レジャーや山陽オート等」と括弧して入れてもいいんじゃないかなと思います。

笹木慶之分科会長 1行目の中の「にぎわいを生み出す源は産業活動とある」、その活動の中に括弧してレジャーということ、細かいことは別として、ここに入れるということですね。（「はい」と呼ぶ者あり）この件も1回目の委員会の中で、レジャーの取扱いについてということで、いろいろ

議論をしたわけですけど、最終的には執行部との調整ができなかったというのがあります。そういったやり取りの中から、今の発言に至ったんだろうなというふうに思います。

伊場勇委員 例えば、基本目標にレジャー、ゴルフとかを入れるのであれば、基本事業に入っておかないといけないのかなとか思ったりするんですよ。産建でオートレース場について、基本事業のことで踏まえた部分があったのかどうかというのはどうですか。ぱっと見では、ないかなと思ったりしたんですが、その辺はどうですか。

藤岡修美委員 具体的にオートレースを観光、レジャーでというような意見は特になかったです。

伊場勇委員 観光のところで総務のほうは、観光客数というところで、基本事業のところに入っておりまして、そこはゴルフの人口も含まれる。ゴルフで来られた方も観光に含むという位置づけでということなんですね。そこにはレジャーという言葉がないので、市は観光の中にゴルフ客というのが入っている。レジャーじゃなくて、観光客という位置づけなのかなというところで話しております。それぐらいなんですよ。基本事業に出てくるところを、基本目標にしっかり出すべきだということの根拠は、しっかりしておかないといけないかなというふうに思います。

長谷川知司委員 伊場委員が言われたとおりなんです。92、93ページの基本施策25で、観光・交流の振興というのがあります。でも、この中にもレジャーという言葉は一切考えられていなくて、質問の中で、ゴルフとかは観光だと。ちょっとそれは無理なんじゃないかなと思うんですね。ゴルフは観光ではなく、レジャー産業ということで、産業としてのレジャーを考えるべきかなと思うわけです。

松尾数則委員 交流人口の増加に、レジャーは非常に大きな役に立つだろうという意識を持っています。当然ゴルフなんかも含めてですけど。そうすると各分科会の中で、そういった内容のものを作っていたほうがいいかなという気がしています。文章を入れるといっても、何か釈然としないところありますし、どうでしょうか。

長谷川知司委員 当然、分科会でもやりますが、表にレジャーという言葉が一つもないので、それがあればということと言ったわけであって、この産

業の中にレジャーが入るよという見識であれば、それでいいんですけれど。

笹木慶之分科会長 総務委員会の中でも、かなりレジャーのことを取り上げて議論したと思うんです。総務とすれば、92ページの基本施策25の観光・交流となっている観光のところに、レジャーが入り込む余地があるということがあったんですよ。確かにさっきあったように、基本構想分科会とそれぞれの基本計画の分科会が連なっておらんと、ここにいきなり出すというわけにはなりませんよね。だから、その辺をどう調整するかということになるかと思うんです。レジャーを産業と捉えて、そっちで表現するという見方もありますが、その辺がどうなのかなということなんですよね。一般的に言葉を調べてみると、レジャーというのは、レジャーとか観光とかいうのは同じようなグループのところへ入っているんですよ。それからもう一つレクリエーションも似たような部分というところで、レジャーというのは余暇の利用に関するようなことになるんです。

長谷川知司委員 余り引っ張ってもいけませんので、一つの提案としては先ほど中岡委員が言われましたように、5ページの基本目標の中の説明のところにある産業活動というところに括弧書きでレジャー等を入れるか、あるいは下から2行目の観光、交流人口の増加というところに、観光、レジャー、交流人口の増加という形か、どこかにレジャーというのを一言入れてもらいたい。というのが、今後のゴルフ場や山陽オートを振興することになると思うんです。

森山喜久副分科会長 私は下から2行目の「活かして」の後に、「山陽オート、ゴルフ場等のレジャー資源や観光ルートを提供して、交流人口の増加を図るほか」とかいうふうな感じの文言を入れて、具体的に山陽オートやゴルフ場などのレジャーという言葉を入れていったらどうなのかなというふうに思います。

伊場勇委員 レジャーという言葉を入れる効果についてなんですけど、やはりオートレース場とゴルフ場が本市の特徴でもありますので、それをしっかり活用すべきだということで、皆さんで意見が一致するのであれば、しっかりレジャーという言葉を入れ込んでいいのかなというふうに思います。

笹木慶之分科会長　そういうことで皆さんの意見をまとめていきたいと思いません。参考に申し上げておきますが、総務文教委員会の中では、交流人口の増加という形の中で捉えた議論をしたわけですね。その中で、レジャーに伴う交流人口の増加というのは、非常にいろんな面の要素があるんだということを中心に議論したと思います。森山副会長が言われたような表現というのも一つの方法かなというふうに思います。その辺りは最終的にまとめてみたいと思いますが、どうでしょうか。ちょっと保留にしましょうか。いろいろ考えてもらって、後ほどまとめたいと思います。4、5ページについてはいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）その次に行きます。6、7ページ。

白井健一郎委員　6ページの6行目の中ほどから、人口減少を抑制するための取組の方向性として、雇用産業の創出、定住移住促進、結婚出産子育て支援、産学官連携の強化、住み続けられる地域づくりを掲げているんですが、前回執行部からも説明があったように、本市だけではなく全国的な問題なんですけど、この悩みの種が、人口減少から始まっています。この人口減少を克服して、反転攻勢といいますか、市内のいろんなことを盛り上げることができるんだという具体例として、ここにうまく書かれているので、ここはとてもいい表現だと思うんです。ですから、協調していただければありがたいと思います。

笹木慶之分科会長　最後、どうすればありがたいのか。

白井健一郎委員　協調です。

笹木慶之分科会長　例えばどういうふうに強調しますか。

白井健一郎委員　最低限、削ったりしないとか、このままの表現といいますか、雇用産業の創出から五つ挙がっていますよね。これをいじらないで、このまま使っていただくとかです。もう一つ挙げると、これがどこに書かれていたんだろうと思うと、総合戦略においてとあるんです。この総合戦略というのは、私は未熟なもので存じ上げないんですけど、これは、第一次総合計画の上位計画といいますか、上位規範となるものでしょうか。

尾山議会事務局長　総合戦略は、まち・ひと・しごと創生総合戦略のことを総合戦略と一言で言っているものです。これは国から、全ての自治体に作

るようにということが以前あって、作っているものです。この度、総合計画を見直す中で、総合戦略も計画期間の満了を迎えるんですが、この際、総合計画自体が市政全般を網羅しているものだから、総合戦略の内容も、次のものを作るのではなくて、総合計画の中に盛り込んで、実現を図っていくということになっております。

伊場勇委員 山陽小野田市のまち・ひと・しごと創生総合戦略というのがありまして、総合計画みたいに市の施策を横断的に取りまとめる計画があつて、この総合計画の中期計画が令和4年度から始まるので、これを一本化するということですよ。総合戦略があるけれども、これを一本化して、総合戦略のことを全部総合計画のほうにも入れて、一本化してやっていくということですよ。

尾山議会事務局長 そのとおりです。

笹木慶之分科会長 お手元の資料の中の資料3というところで、第1編の序論というのがあるんですよ。その中の5ページに、山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係というところで書いてあります。提案に当たって資料をもらっていますよね。その中の序論という部分です。計画策定に当たってから始まって、3番として、山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係という形で、これが取り上げられている。その総合戦略を用いて、先ほどの表現があつたということです。第二次山陽小野田市総合計画は、総合戦略の内容を含んだものであることから、令和4年4月以降については、総合戦略と総合計画を一本化することとしますということになっているんです。そういうことを確認しておきます。ほかにございませんかね。（「なし」と呼ぶ者あり）前回確認したと思うんですが、この辺りの訂正について意見を申し上げたところ、基本構想自体は12年間の計画であるので、そういった変更はしておりませんという意見がありましたですよ。10ページの計画の実現に向けてというところで、一部訂正が掛かっています。（発言する者あり）今の人口の見通しから始まった最後のところで、デジタル技術を活用することによってというところ、それから民間ノウハウを活用してというところ、それから協創によるまちづくりという部分に一部訂正が掛かっています。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）よろしければ、次に中期計画に入ります。ここで10分ほど休憩をしたいと思います。

午後 2 時 5 分 休憩

午後 2 時 1 5 分 再開

笹木慶之分科会長 それでは、分科会を再開します。次に中期基本計画について、御意見を頂きたいと思います。重点プロジェクトについてですが、2 ページから 5 ページまで。重点施策として「地域を創る」「ひとを創る」「まちの価値を創る」と三つの横断的施策ということになっております。ここは重点施策の 1 の中の新たな地域づくりの市民活動センターに支援という言葉が抜けていたということで、挿入がありました。ほかはなかったと思いますが、よろしいですか。

中岡英二委員 三つの横断的施策の中のデジタル化の推進の中で、「デジタル技術を活用することで健康づくりや福祉サービス、地域づくりの分野」とありますが、私はどうもデジタル化の推進の中で健康づくりというのはなじまないような気がします。10 ページにもありましたように、デジタル技術を活用するには、市民生活の向上や質の高い行政サービスの提供に取り組みますとありますから、私は健康づくりというのは、一番下のスマイルエイジングの推進、知守、食事、運動、交流の各分野における様々な取組を市民と共に行うことで、市民の「健康づくり」や健康寿命の延伸を図りますというふうに、そちらのほうに健康づくりの文言は変えたほうがいいんじゃないかなと思います。

笹木慶之分科会長 この基本施策、重点プロジェクトについては、それぞれの基本計画の基本施策の中に移行しているんですよね。ということで、その辺りの担当分科会での意見はありませんでしたか。

松尾数則委員 スマイルエイジングの中で、デジタル化に結びつけようとかいう話はなかったです。

笹木慶之分科会長 特に担当分科会のほうではなかったということですよ。

伊場勇委員 執行部を呼んだときに、余り聞いてなかったように思うんですけど、例えば e スポーツもあるじゃないですか。高齢者の方を対象にやるのであれば、集中力の向上とか健康面にも効果があるんじゃないかなとか、思いついたところはそれぐらいです。他市町では、歩いた距離でポイントを付けたりとかいった取組をしているので、そういうところも、

今からしようとしているのか、これも視野に入れて、健康づくりと書いているのかなと思いました。このことについては、企画が来たときには聞いていないので、もう一度聞くほうがいいのかと思いました。

藤岡修美委員 ランニングしたりしたときに、スマートウォッチで血圧とか脈拍とかを記録できるようなものかなと私は思うんですけど、企画を呼んで聞いたほうがいいのかと思います。

吉永美子委員 議会としても、これから特別委員会を立ち上げようかというところまでいって、デジタルというものは、進んでいくというのは間違いないと思うんです。いろいろな提案も国から入ってくる可能性もあると思うんです。現在いろんなアプリを使ってとかありますので、健康づくりはデジタル化と全く離れるというふうには思いません。

松尾数則委員 総務のほうでeスポーツの話が出たんですか。（発言する者あり）出てきたわけではないんですね。

白井健一郎委員 デジタル化で健康づくりというと、やはり血圧とか脈拍とかを測れるというところですね。ジョギングしたら、どこまで上がって、上がったら警告の音が鳴るとか、何キロ走ったとか、あるいはジョギングだったら、どの道を走ったから時速何キロで、タイムもどれぐらいだったとかが分かることだと思います。

笹木慶之分科会長 この表現をよく読み取ってみると、デジタル化の推進ということで項目が挙がっていますが、そういった分野等における市民生活の質の向上を図っていくということなので、それが行政運営の効率化につながっていくという結びになっているんですよね。吉永委員が言われたように、いろんな角度から、そういったものがどんどん入ってくるということを前提に考えれば、ここでとらまえておいたほうが、より効果的かなというふうに解釈できます。それが結果的にスマイルエイジングにつながっていくということになるかもしれません。デジタル化という一つの事業の推進の方向性を示したということで捉えれば、どうでしょうか。そういう意味合いで理解していこうと思います。

中岡英二委員 今の御意見でいいと思うんですけども、10ページの計画の実現に向けてというところで、デジタル技術を活用することによりとあるので、それだったら健康づくりも入れて、市民生活の向上や質の高い行

政サービスの提供に取り組まずという文言を入れてもいいんじゃないかなと思ったんです。10ページというのが、戻った10ページです。

笹木慶之分科会長 将来像ですね。ここは4行目にデジタル技術を活用することによりという言葉が入っています。市民生活の向上や質の高い行政サービスの提供に取り組みますだから、もうちょっと高い次元で締めくくっています。

中岡英二委員 健康づくりも入れていいんじゃないかなと思ったんですよ。この三つの横断的施策を見て、計画の実現に何でデジタル技術の活用により、健康づくりが入っていないのかなと思って、ここに。

笹木慶之分科会長 それが市民生活の向上というところになっているということとでまとめてある。

中岡英二委員 分かりました。

松尾数則委員 デジタル化とか、ICT化とかいうのがあちこちに使っている。魔法の言葉みたいに使っているんですよね。これがあつたら何でもできますよという表現に使っている。もう少し現実的な内容にするほうがいいのかなというように感じています。

笹木慶之分科会長 具体的には。気持ちだけですか。

松尾数則委員 デジタル技術というような表現ではなくて、何かというふうに挙げないと、これでは意味が通じないところが多いでしょう。

笹木慶之分科会長 今のような意見もありましたが、いかがでしょうか。

伊場勇委員 デジタル化は多岐にわたるので、横断的な施策というふうに捉えていくべきだと思います。この4年間でも、新しい仕組みもこれからどんどんできてくると思う。そうすると、健康づくりや福祉サービス、地域づくりの分野等に含まれるんじゃないかなというふうに理解すれば、こういう書き方にしておいたほうが、今後は無難かなというふうに思います。

笹木慶之分科会長 この部分は、三つの横断的施策と書いてありますが、基

本計画ですから、計画の思いを書いているという部分で、これを受けてそれぞれの個別の計画に入っているというふうな感じはありますが、大きくまとめて表現してあるというふうには理解すればいいのかなというふうに思います。一応、先ほどの意見でまとまったような感じはあるんですけど、どうでしょうか。これはこれとしてよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）ほかにありますか。

伊場勇委員 3ページの重点施策2の「ひとを創る」のところで、妊娠期から始まる一貫した子育て支援ということなんですが、妊娠するに至る支援策というのもあると思うんですよ。本市はやっていませんけど、不妊症とか不育症とかに対しての市の支援とかいうのもしていくべきかなと思います。今はその支援策がないので、国、県の補助制度に乗っかっているだけですから、その辺は書けないのかな、どうなのかなと思ったところがあるんです。子供を産みたいと思って、産みたい人が妊娠できるような仕組みも必要なので、妊娠期からと書かれると、妊娠できない人とか、妊娠したいけどできない人はどうなんだというところがあるので聞いたんです。しかし、今のところそういうこともないし、子育て支援をしっかりとすることで、子供を産みたいにつながるみたいな答弁を頂きましたが、そのところがちょっと引っ掛かっているんです。何て言ったらいいかまとまっていないんですけど、突き放したとは言わないけれど、何かちょっと少し寂しい思いがする表現だなというふうに思っています。これを要望もしくは附帯意見として出すかとまでは、どうなのかなというふうに思っています。

笹木慶之分科会長 意見ということでいいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）民生福祉分科会でその点は出ませんでしたか。

松尾数則委員 これは妊娠した人というようなイメージで捉えていて、そこまでは委員会で出ませんでした。

笹木慶之分科会長 ほかにございませんか。（「はい」と呼ぶ者あり）なければ、全体を通して、もう1回確認をさせていただきましたが、全体的に御意見ありませんか。

吉永美子委員 分野別計画の構成についてというところを触れていいということでしたよね。（「はい」と呼ぶ者あり）構成についてというところで、以前と違って、2029年のあるべき姿とか、4年間の目標とかを新た

に入れられて、基本方針をやめてということで、具体的に取り上げるということを努力されているのは、とってもいいことだと思うんですけど、目標指標なり、評価指標なりの挙げ方は、分科会でも年数が古いのではないかとか、この評価指標よりも違うのがいいんじゃないかとか、いろんな議論がかなり出て、指標の挙げ方は、もう少し執行部の中で議論していただいて、出していただくほうがベターかなという感じがしています。かなり議論が民生福祉分科会の中でありましたということです。ちょっとその意見だけ。努力は認めますから。

笹木慶之分科会長 これは後ほど、それぞれの分科会長が出ておられますから、そういった立場からもう1回意見を聞いてみたいと思います。今の指標の使い方が的を射ていないんじゃないかということですよね。そういったことを含めて、分科会での意見を聞いてみたいと思います。ほかによろしいですか。

伊場勇委員 2029年のあるべき姿というのをしっかり明確にされていて、そこはすごく評価すべきかなと思います。前回よりも明らかに見やすくなっていますし、現状と課題も前回より多く挙げ、4年間の目標をしっかりと定めて、この4年間の取組姿勢がより具体的になっているなというところは、すごく評価すべきというふうに思っています。目標指標、評価指標については、執行部としては、クリアできる数字というのを厳密に話し合って協議されたんじゃないかなというふうに思っています。もちろん、良いことは100%に近づけて、悪いことはゼロ%に近づけるというところがあるんですが、達成すべき数字とするところを、達成できる数字を挙げているのかなというふうに思っています。少し消極的なようなどころも感じていますし、そこは少し思ったところですよ。

吉永美子委員 私は分野別計画の構成について、より具体的にあるべき姿とか、4年間の目標とかということを出されたこと自体は評価しています。その上で、目標指標とか、次にある評価指標の出し方が、民生福祉の中で、前期のときと今回のときとの違いで、例えば、これは評価指標だったかもしれないかもしれませんが、いずれにしても前は執行部が頑張っていることをせっかく出しておられたのに、それが消えていたりとか、せっかく頑張っておられる、こうやろうじゃないかというところを、あえて消さなくてよかったんじゃないかとか、目標指標とされていたのは、評価指標のほうがいだろうとか、かなり議論があったんですよ。なので、指標の出し方について、もう少し執行部で議論していただいて、出していただく

いいのかなと思ったので、そう申し上げたところです。構成のやり方については評価しています。前よりも具体的でしたから。それは評価しているんです。その上で、分科会でかなり議論があったので、一応申し上げさせていただいたところです。評価はしています。

笹木慶之分科会長 伊場委員が言われたこととほとんど一緒だと思うんです。いいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）ほかにはないようでしたら、それぞれの分科会で、基本的施策、基本的な事項、事業について議論しておりますので、そういったことを踏まえて、それぞれ分科会からの意見を聞きたいと思います。基本構想について何か意見があったのかどうかです。

長谷川知司委員 この中には全然うたっていないですけど、今後、世界では脱炭素、今後国が施策を決めますけど、まだ決まっていないから、具体的には言えないです。しかし、そういう方向に行くというのは、当然だという見方をしているわけです。そのことが一切うたわれていないということは、ちょっと寂しい気がしました。

松尾数則委員 民生福祉では、基本構想に関して意見はなかったです。ただ、CO2の問題とか、2029年のことを踏まえた指針になっていないとかいった内容もありました。これは、分科会のほうから報告したいと思います。

藤岡修美委員 産業建設は、基本施策の目標指標が二つ修正ですが、これは執行部からの修正です。それから、評価指標が5件修正ですが、これは分科会で協議して、修正したほうがいいんじゃないかということで提案して、執行部も受け入れたという状況です。修正はそれぐらいです。修正には至らなかったんですけど、基本施策の在り方で、前期計画では農業、林業、水産業をそれぞれ基本施策設けてやっていたのが、今回の計画では一本化されて、林業と水産業の部分がかなり弱くなったという意見、要望という形で終わったのと、企業立地の推進という項目で、小野田・楠がほぼ満杯になるだろうという予想の下、新しい企業団地の整備を強く要望したいという意見が出ましたが、特に基本構想自体まで波及するというか、変更しようという意見までには至っておりません。

笹木慶之分科会長 考え方とすれば、基本構想に基づいて次の施策が作られているわけですから、それをいろいろ議論する中では、基本構想がぼやけて見えるような部分が出てくるわけですね。総務でも同じようなこと

があったんですが、それを修正するというところまでは行かないということと、基本的に執行部は、基本構想は12年間の計画なんだということの前段で言ったものですから、ちょっとその辺りの考え方が、いろんな思いがありながらも、そういうところに至ったということだと思えます。ほかには御意見はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）ないようでしたら、これで終わりたいと思います。今日の意見を聞いた中で、さらに執行部にも確認しなくてはならん部分があるんですよ。ということで、特にレジャーの部分の問題であるとか、二、三ありますので、それを確認しながら、最終的にはもう1回分科会をやらざるを得んかなというふうに思います。まだ、それぞれの分科会が終わっていない状態ですよ。ということで、ここで門を閉めるというわけにもいかんと思いますので、それを見た中で、最終的には分科会をしたいと思いますが、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）ということで、今日の分科会は終えたいと思います。大変お疲れ様でした。

午後2時40分 散会

令和3年11月26日

総合計画審査特別委員会基本構想分科会長 笹木慶之